

川越は、戦国時代以前は、文献資料をみると、河越という字を使っていたのが一般的である。

私が本校に在職中に関係した仕事としては、平安時代末期から鎌倉・室町時代初期に活躍した武蔵武士の棟梁「河越氏」の本拠地である「河越館跡」の調査と国指定史跡への保存運動であった。この運動の推進者は、本校の卒業生及び郷土部員たちによる発掘調査の結果に基づくもので、必然的に拘わる課題であった。

河越館跡(川越上戸)は昭和七年(一九三二)に県指定史跡になった。その指定地内を不動産会社が許可をとって住居建設のため造成工事を始めたのである。これに早速対応したのは、川越郷土保存会(本校・川越女子高の卒業生が主体)で「武蔵国の豪族河越氏の館跡」はその持仏堂から発展した「河越山常楽寺」を含む約二町四方(約五万㎡)の方形館跡で武蔵国最大の規模を有するものであった。「川越養生とそのゆかりの地」である館跡が破壊されるのを、川越市民の力でこの文化遺産を守ろう」という主旨の訴えと保存の著名運動を展開した。丸広百貨店・川越駅・本川越などの街頭での保存署名は千三百名に達し、「館跡の公有地として買上げ、将来は歴史公園として一般に公開すること」の要望を添えて、川越市長と同市議会議長あてに陳情書を提出した。その結果、同年十一月五日に川越市教育委員会から「河越館跡の用地は全部買上げる方向で考える。買上げできぬ地については、遺跡が残るよう努力する。買上げ後については、文化財保護の基本的立場から公共施設として活用したい考え

である」との回答が書面であった。この運動の成果として宅造は中止され、指定地内の土地を不動産屋から購入した人々には市の責任で代替地を斡旋し購入してもらった。「河越館跡は保存された。」

第一次発掘と保存運動

(一九七一年・第一回)

館跡西側の土塁の外側にある堀と、土塁が北から東に曲がるコーナーの堀の確認調査が今回の目的であった。同年三月十五日、四月五日まで専修大学教授松本新八郎と小泉功が発掘担当者となり、本校の卒業生及び同校郷土部員も参加し調査が実施された。土塁に接して四メートル×十二メートルのトレンチ内で、上幅七・五メートル、深さ二・七メートル・底幅二メートル葉研状の堀が南北に通ることが確認され、カワラケ・常滑焼などの遺物が検出された。この堀の延長で西北のコーナー部分では二本堀の存在を確認でき、館の北限を示すもので、土塁の外側の堀の南北長は約二一・八メートルに近いものであることが判明した。方二町に近い規模の館であることが判った。

この間に市開発公社が北の中央張出し区を小学校建設の予定地として測量を始めた。この地域は「新編武蔵風土記」の絵図(第2図)にある北側の土塁部分に当り館跡内であることを調査中は市教委に指摘し、市当局も認めたが、学校用地の一部を遺構確認のため発掘することとなった。

第二次発掘と保存運動

(一九七一年・第一回)

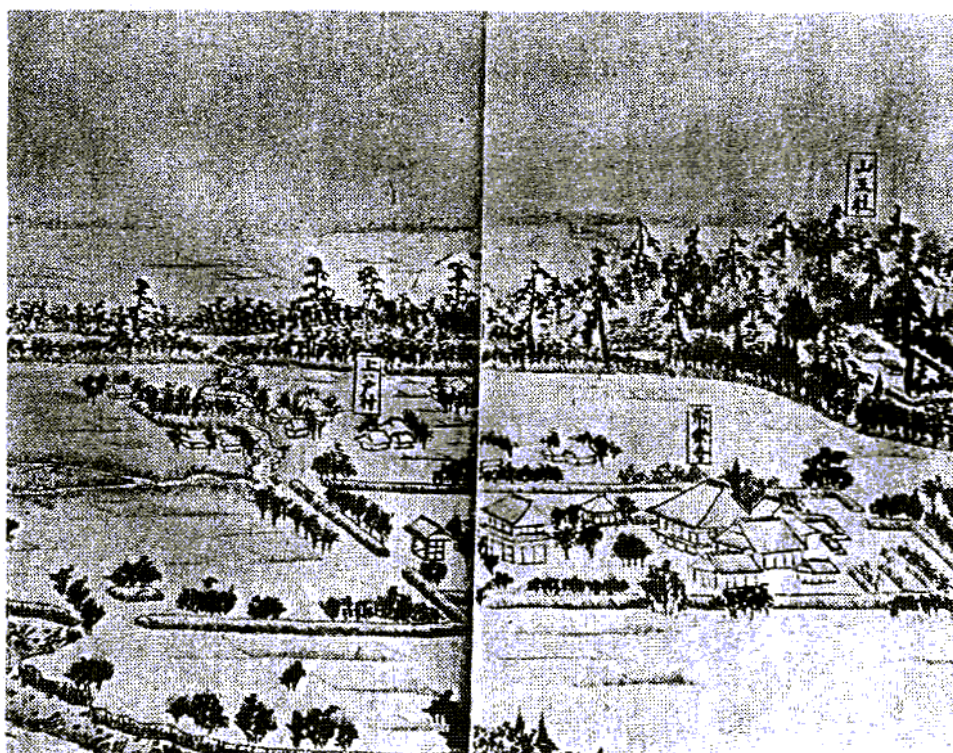
学校予定地の一部七千平方メートルを発掘対象となった。検出された遺構は、館の成立以前の竪穴住居は古墳時代・奈良時代のもので平安時代中期のもの四軒で、館の成立が平安末期であると考えた場合、四軒の竪穴住居址は若干あるが館の築成期を考えると妥当性が認められる。館の施設としては、堀立柱群、特に東西二間・南北六間の規格をもつ建物が存在した。また、東西に通る二本の堀がここでも検出され、「風土記稿」の絵図(第2図)とも照合するもので館跡の北限を確定する重要な堀であった。

この調査の結果を、文化庁は同年十月に視察され、「国は全国的に多くの遺跡をかかえているので、今すぐは無理であるが、今まで川越市が公有地(小学校建設のため)として買上げ実績を転換させ、これを足場として国に積極的に働きかけるならば十分国指定になる史跡である」とのことであった。十二月の県議会では、地元送出の配島昭次議員が「学校建設の意図と保存に対する意向について」の質問をしている。川越市当局が県指定史跡内を小学校の運動場として使用することは、「文化財保存のために買収した土地でありその他の目的に使用するのは不可能である」との回答が市にあった。

川越市議会でもとりあげられ、加藤川越市長は「慎重に検討し場合によっては代替地を考慮すること」を明言した。こうした情勢のもとで、川越郷土保存会(卒業生が主体)が同年十二月十九・二十日に、河越館跡の中間報告会を、本丸御殿と霞ヶ関公民館で行った。その際に行ったアンケート調査の結果は次の様であった。◎発掘調

査を知っているか。知っている七〇% 知らない三〇% ◎中世の河越館を知っていたか 知っている六五% 知らない三五% ◎指定史跡内に学校を建てた方がよいか。よい三・五% 変更すべきである九〇% どちらでもよい六・五% ◎歴史公園として市民に生きた教材として役立たせた方がよいか、どうか。役立てた方がよい

九〇% 必要がない一% (回答者二八〇名) 大多数の人が保存し歴史公園として活用することを要望していることが明らかになった。これを機に、翌年の二月に「河越館跡を保存する会」が発足した。(川越郷土保存会は発展的に解消された) (つづく) (山職員)



第2図 河越館跡(19世紀初・「新編武蔵風土記稿」の略図)